

《担当者名》 佐々木祐二 y-sasaki@hoku-iryo-u.ac.jp 山根裕司

【概要】

理学療法において、関節可動性の改善と疼痛の軽減に対する治療手技として徒手療法（manual therapy）が用いられる。本科目では、徒手療法の中でも特に、関節モビライゼーションの治療原理、関節機能障害や痛みに対する評価ならびにその基本的治療手技について講義と演習を通して学習し、症候に適した関節モビライゼーション手技を選択できる基礎能力を身につける。

【学修目標】

リハビリテーションの重要な治療手技である徒手療法を実施するために各種徒手療法、特に関節モビライゼーションについて学び、解剖学、運動学などの知識を基に症候に適した治療手技を選択し、実施できる。

【一般目標】

1. 徒手療法の基礎理論を理解し、説明することができる。
2. 各種徒手療法を理解することができる。

【行動目標】

1. 骨・筋・軟部組織を触診することができる。
2. 各種徒手療法を用いて評価・実践することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	徒手療法総論	徒手療法の基礎理論 <キーワード> IFOMPT、骨運動学、関節運動学、構成運動、関節の遊び	佐々木祐二
2) 5	関節モビライゼーション	肩関節・肘関節・手関節・手指の触診 肩関節・肘関節・手関節・手指に対する手技 <キーワード> 凹凸の法則、エンド・フィール、ジョイント・プレイ	佐々木祐二 山根裕司
6) 9	関節モビライゼーション	股関節・膝関節・足関節・足部の触診 股関節・膝関節・足関節・足部に対する手技 <キーワード> 凹凸の法則、エンド・フィール、ジョイント・プレイ	佐々木祐二 山根裕司
10	軟部組織モビライゼーション	横断マッサージ（deep friction massage） 機能的マッサージ（function massage） 等尺性収縮後弛緩法（post isometric relaxation） <キーワード> 横断マッサージ、機能的マッサージ	佐々木祐二 山根裕司
11) 12	神経モビライゼーション	テンションテスト下肢・体幹 テンションテスト上肢 <キーワード> 神経モビライゼーション	佐々木祐二 山根裕司
13) 14	スタビライゼーション & スリング・エクササイズ・セラピー	脊柱・骨盤帯・肩甲帯に対するスタビライゼーション・エクササイズ 関節トレーニングなどのスタビライゼーション・エクササイズ スリング・エクササイズ・セラピー <キーワード> スタビライゼーション、DYJOCトレーニング、スリング・エクササイズ・セラピー	佐々木祐二 山根裕司
15	関節モビライゼーション	脊柱・骨盤帯の触診 脊柱・骨盤帯に対する手技 <キーワード> 凹凸の法則	佐々木祐二 山根裕司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点15%、定期試験85%

平常点は、授業態度、積極性、予習・復習の自主的学習態度で評価する。

試験問題は返却しないが、問い合わせがあった場合はフィードバックなどを実施する。

【教科書】

教科書は使用しない。講義・演習は配布資料を基に進行する。

【参考書】

竹井仁・他 編 「系統別・治療手技の展開 改訂第3版」 協同医書出版社 2014年

藤縄理 「徒手の理学療法-Manual Physical Therapy」 三輪書店 2009年

宮本重範 監修 「マニュアルセラピー 臨床現場における実践」 ガイアブックス 2014年

高田治実 総監修 「エビデンスに基づいた徒手療法」 ガイアブックス 2012年

富雅男・他 監修 「整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concept」 医歯薬出版 2011年

藤縄理・他 監訳 「マリガンのマニュアルセラピー 原著第7版」 協同医書出版社 2021年

伊藤直繁 監訳 「バトラー・神経系モビライゼーション」 協同医書出版社 2000年

佐藤友紀 「パリス・アプローチ 実践編」 文光堂 2012年

赤坂清和・他 監訳 「メイトランド 四肢関節マニピュレーション」 医学映像教育センター 2010年

赤坂清和・他 監訳 「メイトランド脊椎マニピュレーション」 エルゼビア・ジャパン 2008年

【備考】

集中講義を予定しているため場合によっては土曜日・日曜日開講となる。

【学修の準備】

・予習：授業で扱うキーワードについて、参考書、関連図書、インターネットなどを利用し、その語句の意味・意義を調べておくこと（80分）。

・復習：配布資料や参考書、必要であればインターネットなどを利用し、知識・技術を深めること。可能なかぎり、実践した技術を反復練習し、技術の習得を図ること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

佐々木祐二（理学療法士）、山根裕司（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での理学療法士としての実務経験を活かし、各種モビライゼーション手技やスタビライゼーション手技などの実践方法について講義する。